



関屋小だより

校長 佐藤 幸代

健康で明るい子 進んで行動できる子 よく考える子

2026年のスタートです

竹が
ここに
来て
いるよ



2026年がスタートしました。新年をいい気分でスタートできましたか。大塚先生が終業式にお話してくれた、「ふ ゆ や す み」を意識して過ごせたでしょうか。

「ふ」 ふだんどおりの早寝早起き朝ごはん
「ゆ」 ゆっくりじっくり考えて
「や」 やりすぎ注意 ゲームとスマホ
「す」 すてきな思い出たくさん作ろう
「み」 みぎひだりよく見て確認

でしたね。ふゆやすみは終わったけれど、この5つは3学期も意識してほしいことだと思うので、みなさんもぜひ、心に刻んでほしいと思います。

さて、関屋小学校の正門には今年も立派な門松が飾られています。毎日の登下校見守りや、芋ほり、お米作り、家庭科の実習などでお世話になっているコミュニティの皆様が、関屋小にたくさんの「福」がやってくるようにと心を込めて作ってくださいました。本当にありがとうございました。

門松の歴史は古く、平安時代にはお正月に松を立てて年神様をお迎えする風習が始まっていたといわれています。門松に必ず使われる「松」は冬でも枯れない常緑樹であることから「元気に一年を過ごす力」、「竹」は成長が早く、折れにくく、しなやかな強さを持つことから「健やかな成長、困難に負けない力」を授けてくれるそうです。

立派な門松に迎えられる関屋っ子のみなさんの2026年もすばらしい一年になることでしょう。

言葉は心の「種」からうまれる

始業式では「言葉」についてお話をしました。「言葉」は昔（奈良時代～）は「言（こと）の葉」と言われていたこと、言葉は人の心の種から生まれて形になったものであるというお話を。みんなが友だちに「ありがとう」というとき、それは自分の心の中にあるキラキラした美しい葉っぱをプレゼントしているのと同じです。反対にチクチクした言葉や言わされた人が悲しくなる言葉を言ってしまうと、トゲトゲの葉っぱをわたしているのと同じかもしれません。では、どうしたら、優しいことばをプレゼントできるようになるでしょうか。ことばの種は心ですから、心を育てることができたらいいですね。本を読んで感動したり、友達と助け合ったり、外で思いっきり遊んだり、毎日いろいろな経験をすることが豊かな心を育ててくれます。

学校はみんなで「言葉の葉っぱ」を見せ合い、交換しあう場所です。この1年、関屋っ子のみなさんの心の中に、すてきな言葉の葉っぱがたくさん茂ることを先生たちは楽しみにしています。

心をこめて
言葉を大切に使っていこう

保護者の皆様へ

健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。始業式で、子どもたちには言葉についての話をいたしました。「言葉は心の現れ」と言われます。ご家庭におかれましても、お子様が発する言葉の奥にある心の動きに、ぜひ耳を傾けてください。温かい言葉のやり取りが、子どもたちの心をより深くたくましい根へと育てていくことだと思います。新しい年も子どもたちの心に美しい言葉がたくさん茂ることを願っております。

本年も、学校と家庭で手を取り合いながら子どもたちを育んでまいりましょう。どうぞよろしくお願ひいたします。